

12.12.2025

暮らし、いのち
子どもたちの未来を
真ん中に

放漫な補正予算の修正ならず、衆議院通過！

12月11日、午前に開かれた予算委員会で、私たち立憲と公明党が提案した補正予算の組み替えは否決され、夕方からの本会議では、私たち立憲は、補正予算案に反対しました。

約18兆円もの大型補正予算。そのうち、約11兆円は国債。

使いきれない基金の積み増しや予備費が、補正予算規模を水ぶくれさせています。

寝かしておく基金にかかる金利の支払いだけで年約500億と、後藤祐一議員(立憲)も委員会質疑の中で指摘しました。

ちなみに、高市総理が政治資金改革を「そんなことより」と言って持ち出した議員定数削減の削減効果は、たったの約34億円。

こうした無駄な予算をチェックし修正させることも、議員の大きな役割です。「議員を減らせば無駄が減る」というのは、議員が仕事をしないことを前提とした、あまりに情けない議論です。

議員の数をどうこう言う前に、見せかけばかりの補正予算で物価高を助長するような愚は謹むべきです。

円安を軽視しながら、給付や減税で埋め合わせという政治は、お風呂の栓を抜きながら足し湯をするようなもの。埋まるどころか、逆効果になる危険性ははらんでいます。

本来補正予算は、大規模災害やコロナ、金融危機など、本予算では予見できなかった緊急性のある支出に対応するものであるはず。近年、何かと膨れがちな補正予算。市場からの日本政府の財政運営への信任が激しく揺らいでるなか、放漫な補正予算の修正ができなかったことは、禍根を残すものになるのではと、危惧しています。

障がいのある子どもの学び — 除外は論外！

12月5日の文部科学委員会では、1954年から始まった大学進学率の算出に、特別支援学校の生徒数が母数から除外されていた問題について、質疑がありました。

これまで、統計から除外された特別支援学校や盲学校ろう学校等の卒業生の総数は46万人。

大臣からは、あらためてお詫びと見直しを指示し、できるだけ早い公表をする、との答弁がありました。

71年前の当時、どういう根拠で除外を決定したのか？これまで一度も庁内で指摘がされず、放置されたのはなぜなのか？その背景に、「大学進学率を高く見せたい」「障がい者は大学に進学しないだろう」という差別意識があったのでは、と思わざるを得ません。

現在文科省は、共生社会の実現のためインクルーシブ教育を進めていますが、これでは、この国に真の共生社会が根付くわけがありません。

障がいのある子どもの「学ぶ喜び」を支え、その子の成長をかけがえのないものとして支える支援学校の多くの先生方や保護者の方々。そして、「学びたい」という当たり前の思いを持つ当事者の皆さん。その全ての方の思いを踏み躪る行為は、許しがたいです。

これまでずっと、障がいのある子どもたちの課題解決に力をいれてきた私にとって、文科省自身が思想として障がい者差別をしているからこそ、いつまでも課題が進まないのか、と疑わざるを得ません。果たして、一つのデータ算出だけの問題なのかどうか。今回の事案を機に、文科省は、全ての所管事業において、差別的扱いについての洗い直しをすべきだと思います。

佐々木ナオミのプロフィール

1969年 小田原市田島生まれ

国府津小学校→国府津中学校

→県立西湘高等学校(第29回生)

→和光大学人文学部文学科卒

教育、子どもの人権、環境問題、農業、平和など、多岐にわたる市民活動を経て、

2007年 小田原市議会議員初当選。3期12年勤める。

2019年 神奈川県議会議員に初当選

県西地区では初めての女性県議会議員

2023年 神奈川県議会議員 2期目当選

2024年 立憲民主党神奈川県第17区総支部長

2024年 衆議院議員に当選

地元事務所

〒250-0875

小田原市南鴨宮3-6-13

天野ビル1F西

phone. 0465-46-6831

fax. 0465-46-6857

mail: team.naomi.sasaki@gmail.com

web: http://naomi-sasaki.com

国会事務所

〒100-8982

東京都千代田区永田町2-1-2

衆議院第二議員会館611号室

phone. 03-3508-7427

fax. 03-3508-3907



公式 LINE



公式ホームページ



公式 Youtube